

## 枝垂れ性モモ品種‘照手水蜜’の育成経過と特性

佐野嘉子・岡部誠・山崎和雄\*・高橋栄治\*\*

Yoshiko SANO, Makoto OKABE, Kazuo YAMAZAKI,  
Eiji TAKAHASHI

A New Weeping Peach ‘Terutesuimitu’

### 1. 緒 言

モモは代表的な春の花として、また香り高い夏の果物として、あるいは薬用に葉を用いるなど、古くから親しまれ、利用されてきた。モモの品種は、利用面から果実用品種と花の観賞を目的とするハナモモに大別され、その用途に応じて改良されてきたため、ハナモモは主に花や樹形が重視され、果実の利用については検討が及んでいない。家庭果樹として、果実用品種が利用されることはあるものの、樹形が開張性で、生育が旺盛なこともあり、スペースの限られた庭には植栽しにくい。

モモには様々な樹形があるが、観賞性が高く、しかも樹冠・樹高等を一定の大きさに保持し易いものの一つに枝垂れ性がある。しかし、枝垂れ性で果実が生食可能な品種は在来品種にはない。

そこで、観賞を兼ねた家庭果樹用品種を育成する目的で、枝垂れ性のハナモモと果実用品種を育種母本とし、1973年より交雑育種を開始した。その結果、ハナモモの枝垂れ性の形質と果実用品種の果実の形質を合わせ持つ新品種の育成に成功したので、その育成経過と特性について報告する。

なお、本品種育成にご協力いただいた相模原分場職員に謝意を表すと共に、果実の食味について数年間にわたり貴重な助言をいただいた元園芸試験場津久井分場長、当分場技術嘱託杉本正行氏にあつく御礼申し上げます。

### 2. 育成経過

枝垂れ性形質を持つハナモモに、果実の肥大性ならびに可食性を導入することを目的に、1973年に、枝垂れ性ハナモモ品種‘源平枝垂桃’と‘残雪枝垂’、果実用品種‘白鳳’と‘大久保’の合計4品種を供試し、4組み合わせの交雑を行い、合計26個体のF<sub>1</sub>個体を得た。枝垂れ性の形質は普通形に対し劣性を示すことから(1)、さらに1976年から1978年にわたり、これらF<sub>1</sub>個体を開花時に白寒冷紗で覆って自殖播種し、合計236のF<sub>2</sub>個体を得た。このうち枝垂れ性を示したものは、69個体(29.2%)であった。

この枝垂れ性を示した個体について1985年より果実の形質調査を行った結果、果実の肥大が良く、苦みがなく生食可能な個体は16個体であった。また、果実が赤く着色する個体は、16個体中7個体であった。その後1988年まで果実および花の形質調査を続け(2)、果実の外観(形、果色、大きさ等)や食味(果肉の糖度、酸度等)、熟期などの点から最も有望と思われた、‘源平枝垂桃’と‘白鳳’の交雑由来のF<sub>2</sub>・系統番号S-16-26を選抜した。これを切り接ぎ、芽接ぎ、および挿し木により繁殖し、原木の特性との差異がないことから固定系統と認め、1988年に育種を終了した。

1989年1月に農林水産省へ種苗登録を申請、1990年10月6日に、種苗法による登録品種(第2406号)となった。

\*現農業技術課、\*\*元相模原分場

### 3. 品種特性と利用

#### (1) 品種特性

##### ア. 樹形

樹形は、枝垂れ性であるが、上芽で強勢に発生した新梢は発生初期は直上に伸長するが、伸長にしたがって先端は枝垂れ、また発生した副梢は枝垂れる。樹勢は中庸で、樹冠は枝垂れ性のため普通型ほど大きくならず、一定に保ちやすい。庭植えでは、目的の樹高まで支柱を用いて垂直に伸ばし、3本程度の主枝を残し傘状の樹形に仕立てると、整枝せん定や病虫害防除、袋掛け、収穫などの管理作業が容易である。

##### イ. 花

花色は桃色（淡紫ピンク、JHSカラーチャート9502）で、波打ちのある5～10枚の花弁からなる一重または半八重である。また、がくの色は紅紫色である。開花時期はサクラのソメイヨシノより数日遅く、育成地の相模原では4月上中旬である。

##### ウ. 果実

果実は、接ぎ木3年生樹において平均果重が115g、果径は5.9×6.0cmと中小果であるが、外観は交雑親品種の‘白鳳’によく似る。果皮色は地色が黄白色（浅橙黄、JHSカラーチャート2203）で、濃桃色（濃ピンク、JHSカラーチャート0113）ほかに着色する。果肉は乳白色で、核周囲がわずかに着色する程度である。肉質は溶質で、粘核である。果汁は多く、甘味は中程度（Brix.12）、酸味は少なく（pH4.5）、渋味、苦味はな

い。着果数が多く、生理落果が少ないため、早期の摘果が必要である。果実の肥大は、収穫の約2週間前より急速に肥大する特性があり、樹上で完熟させて収穫したい。育成地の相模原での熟期は7月中下旬である。なお、花粉は多く自家結実性があるため、受粉は必要としない。

#### (2) 利用

管理がしやすく落葉期の観賞性も高い枝垂れの樹形で、春の花が楽しみ、夏には完熟した桃が味わえる家庭用果樹として優れた品種である。庭木としてばかりでなく、鉢で栽培し、開花期および結実期に鉢物果樹として観賞・賞味するような利用も期待できる。さらに、果実栽培用の育種素材としての利用も考えられる。

### 4. 命名の由来

品種名は育成地（相模原市横山）にゆかりが深く美人のほまれ高い照手姫伝説の‘照手’と、果実が食べられるモモを表す水蜜桃の‘水蜜’を合わせ、‘照手水蜜’と命名した。

### 引用文献

- (1) 高橋栄治, 岡部誠, 山崎和雄, 吉田雅夫, 京谷英寿 1981. ハナモモの育種に関する研究 (第1報) しだれ性とほうき性の遺伝 園学要旨昭56春 (358-9)
- (2) 岡部誠, 上代嘉子, 浅岡巳代治, 高橋栄治, 山崎和雄, 杉本正行 1988. 枝垂れ性のモモの果実用系統の育成 園学要旨昭63春 (130-1)

第1表. ‘照手水蜜’の花形質

形質	特 性
大きさ	中 (花径39mm)
花 形	一重～半八重 (花弁数5～10枚)
花弁の波打ち	有
花弁の色	淡桃色 (淡紫ピンク, JHS カラーチャート9502)
雄ずいの色	淡黄色
花 粉	多
がくの色	紅紫色
開花期	4月上中旬

第2表. ‘照手水蜜’と‘源平枝垂桃’の比較

形 質	‘照手水蜜’	‘源平枝垂桃’
果実の外観	円 (縦径/横径=0.98)	卵円 (1.1)
果頂部の凹	浅 (3 mm)	—
梗あの深さ	小 (0.7cm)	—
大きさ	小 (果重115.8±15.5g)	小 (24.3±2.3 g)
果皮の地色	黄白色 (浅橙黄. JHS カラーチャート2203)	緑黄色
果皮の着色	濃桃色 (濃ピンク. JHS カラーチャート0113)	なし
着色の形	ぼかし	なし
果肉の色	乳白色 (淡黄. JHS カラーチャート2503)	緑黄色
肉 質	溶質 (繊維・中、果汁・多)	— (多, 少)
甘 味	中 (Brix.12.0±1.5)	少
酸 味	小 (PH.4.5±0.2)	多
渋味・苦味	無	多
香 気	中	—
熟 期	7月中下旬	9月上旬

## Summary

The ‘Terutesuimitsu’, a weeping peach tree, was bred by the Kanagawa Horticultural Experiment Station’s Sagamihara Branch. This cultivar was selected as the best of the F<sub>2</sub> type plants (weeping and flowering peach ‘Genpeisidaremomom’ cross-bred with the fruit-bearing ‘Hakuhou’). The main characteristics were a weeping form and sweet fruit, as with the ‘Hakuhou’. The weeping form is one easy to keep at a regular height and maintenance is easy, making it an excellent cultivar for garden use.

Characteristics of the plant are as outlined below:

- 1) The plant is a medium-sized tree with pendulous branches.
- 2) Flowews are either single or semi-double (5 to 10

petals), with a pale purplish pink color (JHS Color Chart 9502) which appear in early April.

- 3) The fruit are small sized, about 115g (5.9×6.0cm) on a three year old tree. The peel color is a light reddish yellow (JHS Color Chart 2203) with deep pink (JHS Color Chart 0113). The taste is sweet (refractometer index 12, pH4.5), with no roughness or bitterness. It ripens toward the end of July. The plant is self-compatible.

The name ‘Terutesuimitu’ comes from ‘Terute,’ a beautiful princess of legend. Terute is a traditional princess associated with cultivation in the Sagamihara area. ‘Suimitsu’ comes from ‘Suimitsutou’ which is type of edible peach.



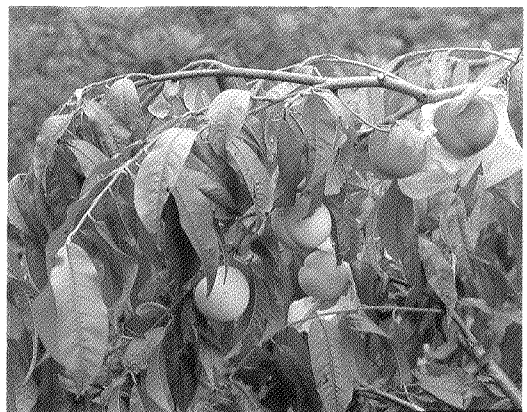
‘照手水蜜’の樹形



‘照手水蜜’の開花状況



‘照手水蜜’の果実



‘照手水蜜’の着果状況